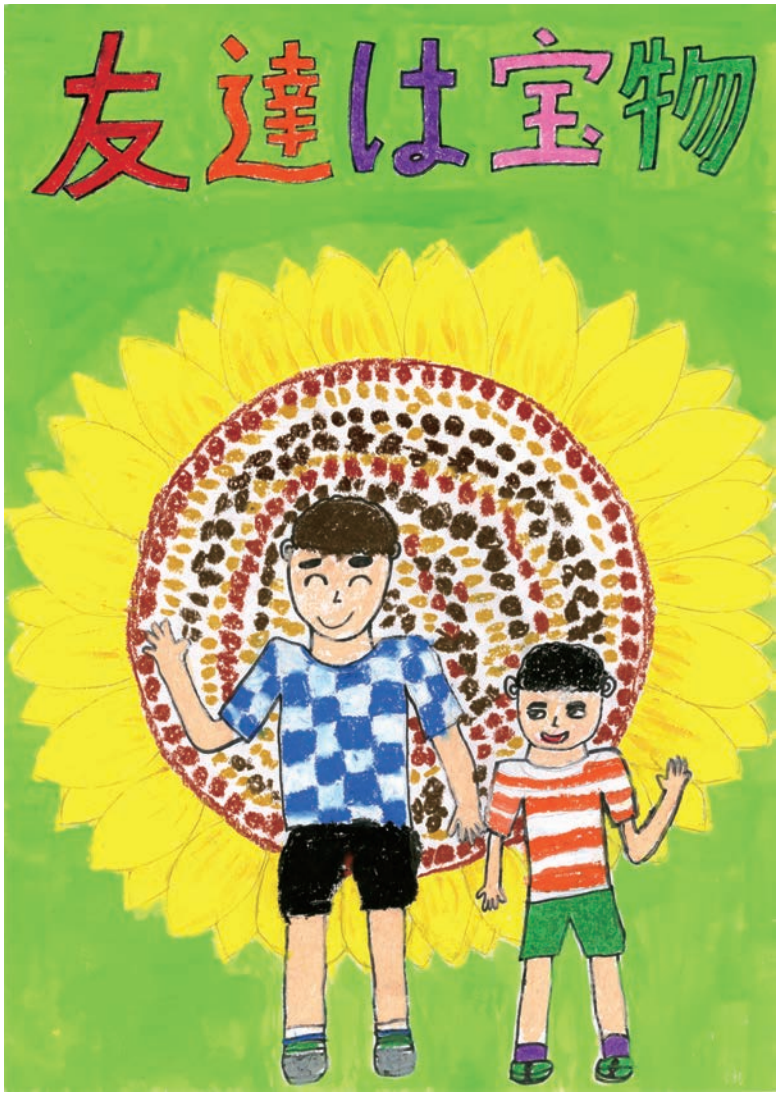
令和４年度
真庭市人権ポスター・作文・標語集



真庭市人権ポスター　小学校　中学年の部　最優秀賞
米来小学校　４年　三村（みむら）　崇太（しゅうた）

真庭市・真庭市教育委員会
真庭市人権教育推進委員会

ポスターの部

最優秀賞

（小学校低学年の部）米来小学校　２年　光岡（みつおか）　葵（あおい）

（小学校高学年の部）
勝山小学校　６年　上田（うえだ）　満（み）ちる

（中高生の部）
落合中学校　１年　道下（みちした）　結月（ゆづき）

ポスターの部

優秀賞

（小学校低学年の部）月田小学校　２年　堀（ほり）　聡大郎（そうたろう）

（小学校低学年の部）湯原小学校　２年　三船（みふね）　和心奈（かこな）

（小学校低学年の部）川東小学校　２年　小林（こばやし）　美知子（みちこ）

（小学校中学年の部）河内小学校　３年　田中（たなか）　悠翔（はると）

（小学校中学年の部）
勝山小学校　３年　芦田（あしだ）　愛莉（あいり）

（小学校中学年の部）天津小学校　３年　神戸（かんど）　健之介（けんのすけ）

（小学校高学年の部）米来小学校　６年　松原（まつばら）　愛美（まなみ）

（小学校高学年の部）川上小学校　６年　三原（みはら）　遙真（はるま）

（小学校高学年の部）
木山小学校　５年　宮本（みやもと）　百賀（もか）

（中高生の部）落合中学校　３年　押柄（おしえ）　來玲杏（くれあ）

（中高生の部）
勝山中学校　３年　小田（おだ）　彩瑛（あやえ）

（中高生の部）久世中学校　１年　定方（さだかた）　梓（あずさ）

はじめに

ウクライナの民話に「てぶくろ」というお話があります。森に落ちていた手袋のなかで様々な動物が仲良く過ごすお話です。「手袋にいれて」「いいよ」という温かい掛け合いやぎゅうぎゅう詰めになりながら体を寄せ合う姿からは、『みんなそれぞれがかけがいのない大切な存在である』という人権尊重の理念を感じさせられます。今もなお戦禍の中にある人々に一日でも安穏な日々が訪れることを願ってやみません。

ロシアによるウクライナ侵攻、新型コロナウイルスの繰り返される感染拡大の波、物価の高騰等々、命とくらしの不安が高まっています。そういった状況の中で、人権に関わる課題も数多く見られます。いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障がいを理由とする偏見や差別等枚挙に暇がありません。

真庭市は、「真庭市共生社会推進基本方針」を令和三年に策定し、「共生社会まにわ」の実現を目指しています。誰もが安心して暮らしていくために、あらゆる人がお互いの人権や尊厳を大切にして支え合い、いきいきと活躍できるように市民を応援してくれるものです。先に挙げた人権課題を解決するために様々な取り組みをしています。

また市民の間にも、ウクライナへの募金活動、子どもの居場所作り、スマホのルール作り等、人権を尊重する活動が身近なところから始まっています。

真庭市教育委員会では、児童生徒や市民の皆さんに人権意識の向上や人権問題の一層の関心を高めてもらうために、人権作品を長年募集しています。今年度は、ポスター七八〇点、作文三八七点、標語七八六点と、多数の応募をいただきました。本当にありがとうございました。どの作品からも人権に関わる事柄に向き合い、みずみずしい感覚で自分の思いを綴ったり描いたりする様子をうかがうことができました。特に作文からは、自分の体験を通して課題に気づき、自分なりに考え、解決に向けて具体的な行動をとろうとする作品に出会うことができ、勇気と希望を与えられました。また、昨年同様に一般の方から標語の応募が多数寄せられたことは、大きな励みになりました。

人権感覚にあふれた子ども達の育成に日々ご尽力くださっている学校、地域の皆様に対しまして心から敬意を表します。これらの作品をより多くの方と共有していただき、人権意識の高揚に役立つようにと願っています。

なお、紙面の都合で応募者全員の作品を掲載できなかったことをお詫び申し上げます。最後になりましたが、この作品集に応募していただいた多くの皆様、ご指導や審査にご尽力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和五年三月

真庭市・真庭市教育委員会
真庭市人権教育推進委員会

もくじ

ポスターの部

◇小学校（最優秀賞・優秀賞）

米来小学校	二年	光岡　葵	表紙裏	
月田小学校	二年	堀　聡大郎	1	
湯原小学校	二年	三船和心奈	1	
川東小学校	二年	小林美知子	1	
米来小学校	四年	三村　崇太	表紙	
河内小学校	三年	田中　悠翔	2	
勝山小学校	三年	芦田　愛莉	2	
天津小学校	三年	神戸健之介	2	
勝山小学校	六年	上田満ちる	表紙裏	
米来小学校	六年	松原　愛美	3	
川上小学校	六年	三原　遙真	3	
木山小学校	五年	宮本　百賀	3	

◇中学校・高校（最優秀賞・優秀賞）

落合中学校	一年	道下　結月	表紙裏
落合中学校	三年	押柄來玲杏	4
勝山中学校	三年	小田　彩瑛	4
久世中学校	一年	定方　梓	4

作文の部

◇小学校（最優秀賞・優秀賞）

ひみつのいいところ	天津小学校	二年	室川陽菜子　8
いいところカード	天津小学校	二年	林　奏希　8
こうりゅう会の話し合い	富原小学校	二年	稲岡　幸瞳　9
ぼくの理想のはん長	遷喬小学校	四年	松田　旺征　10
ぼくの友達	富原小学校	四年	綱島　新　11
わたしの友達	富原小学校	四年	宮田　成実　12
周りにいること	草加部小学校	三年	池田光ノ丞　13
ジェンダーレスについて私が考えたこと	川東小学校	六年	金平　琴子　14
小さなことだけど	湯原小学校	六年	小河原獅文　15
自分の言葉と行動を大切に	落合小学校	六年	藤平　愛咲　16

◇中学校（最優秀賞・優秀賞）

高齢化による問題と対策	蒜山中学校	三年	山岡　千夏　17
周りに目を向けて	蒜山中学校	一年	池田佳奈美　18
「少数派の方が不利？」	湯原中学校	二年	杉村　嘉穂　20
いつまでも無くならないもの	湯原中学校	三年	馬場萌乃香　21

標語の部

◇最優秀賞

【うれしいな・・】 美甘小学校 二年 廣岡 純佳 23
【みとめよう・・】 余野小学校 三年 入江 祥太 23
【違っていい・・】 草加部小学校 五年 森上 颯真 23
【人権は・・・・】 落合中学校 一年 清水弥古都 23
【お互いに・・・】 永田 寿道 23

◇小学校・低学年の部（優秀賞）

【「ありがとう」・】 川上小学校 二年 樋口 大騎 24
【わるぐちは・・】 八束小学校 二年 池田稀々加 24
【わる口や・・・】 天津小学校 二年 森谷 陽向 24

◇小学校・中学年の部（優秀賞）

【ありがとう・・】 川上小学校 三年 植木 誠吾 24
【大じょうぶ・・】 八束小学校 三年 川合 そら 24
【たすけよう・・】 美甘小学校 三年 中山 瑠夏 24

◇小学校・高学年の部（優秀賞）

【消しゴムで・・】 遷喬小学校 六年 岡田 小春 24
【やさしさで・・】 八束小学校 五年 池田 湊翔 24
【一人ずつ・・・】 八束小学校 五年 入澤 聖 24

◇中学校の部（優秀賞）

【言葉はね・・・】 勝山中学校 一年 山田 煌仁 24
【チョイ待ち・・】 落合中学校 三年 金利 幸穏 24
【行動と・・・・】 落合中学校 三年 室川 幸穂 24

◇高校・一般の部（優秀賞）

【助け合い・・・】 片山 信子 24
【気づいてよ・・】 藤木賀巳子 24
【あいさつは・・】 藤木 信宏 24

作文の部　最優秀賞・優秀賞

最優秀賞

ひみつのいいところ

天津小学校　二年
室川（むろかわ）　陽菜子（ひなこ）

わたしは、自分のことがすこしにが手です。

「自分のいいところを書きましょう。」

と、先生が言いました。わたしは、あるのかなと、思いました。でも、わたしは見つけてみたいと思いました。自分のいいところを考えても、一つも見つかりません。こまりました。

そんなとき、友だちが自分のいいところを見つけてくれました。一人の友だちは、

「字がとてもきれいだね。」

と言ってくれました。

二人目の友だちは、

「本がいっぱい読めてすごいね。」

と言ってくれました。

二人のことばを聞いて、自分にはいいところがこんなにあったんだと思いました。

自分のいいところを友だちから聞いて、みんなはわたしのことをそんなふうに見てくれていたのだと、気づきました。自分のことがあまり好きではなかったけど、すこしずつすきになっていきました。これからも、自分のいいところに気づいてみたいな。

優秀賞

いいところカード

天津小学校　二年
林（はやし）　奏希（かなの）

「自分のいいところはどこですか。」

学活のじゅぎょうのさいしょ、先生が言いました。

そう言われてわたしは、自分のいいところはあるのかなと、心の中で思いました。

自分のいいところをさがしてみました。

一つ目は、

「いっしょにあそぼ。」

と、友だちをさそうところです。なか間はずれになっている友だちがいると、なか間に入れてあげます。どうしてそんなことをするかというと、わたしもさそってもらったことがあるからです。

二つ目は、字がていねいなところです。字を書くときは、ゆっくり書きます。字が上手だと、先生や友だちがほめてくれ

ます。ほめてもらうと、もっとがんばろうと思います。
三つ目は、やさしいところです。とくに、年下の子や、ころんでしまった子に、
「大じょうぶ。」
と言ってあげます。もし、同じクラスの子がこまったり、ころんだりしたら、
「大じょうぶ。」
と言います。年上の学年の人がこまっていても、
「大じょうぶ。」
と言います。
友だちから、
「かのさんは、字が上手だね。」
と書かれた、いいところカードを三人からもらいました。自分には、こんないいところがあるんだとすごくかんしんしました。
これからも、自分のいいところをいっぱい、いっぱい見つけたいな。心の中でそう思いました。

優秀賞

こうりゅう会の話し合い

富原小学校　二年
稲岡幸瞳（いなおかゆめ）

わたしたちは、ほいく園のお友だちとのこうりゅう会にむけて、いろいろ話し合いをしました。ゆうひちゃんが、
「ゲームかかりとかもあったらいいんじゃない。」
と心ぱいそうに言いました。わたしは、ゆうひちゃんが何を心ぱいしているのかなと気になりました。わたしは、ゆうひちゃんに、
「何を心ぱいしているの。」
と聞きました。ゆうひちゃんは、
「友だちの考えをおしつぶさないように、みんなの考えも言ってほしいから心ぱいになったの。」
と言いました。わたしは、友だちのことを思うことは大切だなぁと思いました。わたしも友だちの考えをおしつぶさないように、みんなの考えをちゃんと聞かないといけないと思いました。わたしは、ゆうひちゃんに、話を聞くときに、何に気をつけているか聞いてみました。ゆうひちゃんは、
「友だちの考えをおしつぶさずに、大切にしているよ。」
と言いました。やっぱり、あんなにやさしく、
「どうする。」
とか考えをちゃんと聞いてくれるゆうひちゃんは、友だちを大切にしているんだなあと思いました。
つぎの話し合いのとき、ゆうひちゃんがこの前言ってくれたように、気をつけてみたけど、やっぱり思い通りにいかなかったら、わたしは、
「え、やだなあ。」

と口に出してしまいました。わたしには、いいところないのかなあと思いました。帰りにゆうひちゃんが、

「ゆめちゃん、いつもより友だちの考えをおしつぶさないですごいね。」

と言ってくれました。先生は、

「ゆめちゃんがいいアイディアをだして、くれるからすすむんだよ。」

と言ってくださいました。わたしは、心がほっとしたし、自分にじしんがつきました。

これからも、友だちの考えをつぶさず大切にしながら自分の考えもしっかり言いたいです。

最優秀賞

ぼくの理想のはん長

遷喬小学校　四年
松田（まつだ）旺征（おうせい）

ぼくは毎朝、はんでならんで登校しています。先頭は高学年のはん長です。一年生になったばかりのころ、はん長が歩くスピードを合わせてくれたり、ぼくがこけたりした時、

「だいじょうぶ。」

と声をかけてくれたりしました。そんなやさしいはん長がいたおかげで毎日安心して登校できました。

今のぼくたちのはん長は六年生で、ぼくと同じサッカーチームに入っています。そのはん長は、ぼくが一年生の時みたいに、てい学年に歩くスピードを合わせてあげたり、一年生がこけた時、

「だいじょうぶ。」

と言ったり、手をさしのべている時もありました。

そんなはん長が最近、サッカーの練習をしているときにこけてしまい、左手をこっ折してしまったのです。大好きなサッカーもしばらくできないのでとてもかわいそうだなと思いました。

一せい下校の時にランドセルを右手で持つのを見ていて重そうだったので、いつもぼくたちにやさしいはん長になにかできないかなと思い、

「持とうか。」

と言い、ぼくがランドセルを持って帰りました。ぼくはランドセルを二つ持っていたので、（重いなぁ。）と思いながら下校しました。と中ではん長が、

「持とうか。」

と言ったけどぼくは、

「大じょうぶ。」

と言ってそのまま持ち続けました。最後にランドセルを返すとはん長が、

「ありがとう。」

と言ってくれたので、その言葉でつかれがふっとぶくらいうれしかったです。重かったけど声をかけてよかったなと思いました。

　このことでぼくは人に親切にすることで、された人は助かるし、した人はとてもあったかい気持ちになるんだなぁとあらためて分かりました。

　来年の四月からぼくたち四年生がはん長です。ぼくは今までのはん長のようにはんのみんなのことを考えて動けるやさしいはん長になりたいです。また登校はんの人たちだけでなく、ぼくのまわりのたくさんの人に、あったかい気持ちをとどけられるやさしい人になりたいです。

優秀賞

ぼくの友達

富原小学校　四年
綱島（つなしま）　新（あらた）

　ぼくには友達がたくさんいます。とくに、仲の良い三年生がいます。その友達は、笑わせてくれたり、遊んでくれたりします。その友達は、あまりおこりません。なので、ケンカが少ないです。ぼくは、

「そんなことできるってすごいんだな。ぼくにはできないな。なんでだろう」

と思いました。

　ぼくはその友達に決心して、聞こうと思ったけど、声が出なくて言えませんでした。

　それで帰ってお母さんに今日学校のことを言いました。もちろん今日思ったことも言いました。するとお母さんは、

「それは心が広いなあ。じゃけぇ新も人にはやさしくしねえよ。」

と言われました。そう言われて、ぼくは、

「ぼくもそんなふうになりたいな。」

と自分のへやで考えました。

　でも一つ不安なことがありました。それはどうやって心が広くなるかが分からなかったからです。ふとんに入ってもいつまでも心の深くに、不安がありました。

　次の日も考えてみました。でもなかなか思いつかないのでお母さんにまた聞くと、

「自分のやり方でええけえ、まずは友達にやさしくしてごらん。そしたらまたやさしい言葉がまた返ってくるよ。」

と言われました。ぼくは、

「やってみよう。」

と心の中で思いました。

　そして他の友達がこまっていたので、助けてあげると、

「ありがとう。」

と言われてとってもうれしかったです。

そして
「もっとやさしくしよう。」
と思いました。ぼくの中で初めていいことをするといいことがあるということに気づきました。これからも他の友達にもやさしくしたいです。そして三年生の友達のように心が広い人になりたいです。

優秀賞

わたしの友達

富原小学校　四年
宮田（みやた）　成実（なるみ）

わたしは、小さい時に、あまり自分の事が言えませんでした。保育園になって自分とにている女の子が、
「わたしも言えないけどだんだんしゃべれるようにしていこうよ。」
と言ってくれました。わたしは、うなずいて、他の友達ともしゃべれるようにしました。そして、いろんな事が友達にしゃべれるようになりました。そして、その女の子に、
「しゃべれるようになったよ。ありがとう。」
と言ったら女の子は、
「よかったね。」
と言ってくれました。それからわたしは、いろいろなことがみんなの前でも言えるようになりました。
わたしの友達に、みんなの前でしゃべることがにがてな女の子がいます。日直の時は、次の人にかわりに言ってもらいます。でも二人や三人グループの時は、いろいろしゃべれます。わたしは、
「なんでみんなの前では、言えないの？グループや二人三人のときは言えるのに。」
と聞いたらその子は、少しだまってから答えました。
「それは、成ちゃんといっしょできんちょうしてみんなの前では言えないの。」
わたしは自分と同じ思いをしているその子の気持ちがすごく分かります。
その女の子は、一年生の時からみんなの前でしゃべれるようがんばって練習をしています。今は、ときどきみんなの前で小さい声だけど言えるようになっています。
四年生になって算数がむずかしくなってきました。わたしは、わり算のひっ算が分からなくて、ノートで練習していたけど自分だけでは分かりませんでした。その時その女の子が、
「教えてあげようか。」
と言ってくれました。わたしは、うれしくなって、
「ありがとう。」
と言うと、その女の子はにっこりして分かりやすく教えてくれました。

分かりやすく教えてくれたので今、わり算がとてもとくいになりました。今度は、わたしがわり算をほかの友だちに教えてあげられるようになりました。

わたしのクラスは女子が三人しかいません。今は、三人で遊んだり分からないことや相談事などがあったらみんなで考えます。

わたしの友達は、いろんな事を考えたりしてくれます。とても仲がよく、相談にのってくれるいい友達です。わたしは、そんな友達をこれからも大切にしていきたいです。

優秀賞

周りにいること

草加部小学校　三年
池田（いけだ）　光ノ丞（こうのすけ）

僕が幼稚園のころだった。急に熱が上がって、病院に行った。すると、病院の先生が、

「入院した方がいいですね。」

と言ってきた。その時のことは、よく覚えていて、僕はどうしようと不安になった。怖いと思った。それから入院生活が始まった。お母さんがいつもそばにいてくれた。お母さんは、いつも夜になったら、ご飯を買いに行ってくれた。それでも、僕はいつも心の中で怖いと言っていた。朝になるとお父さんも来てくれた。僕は、家族全員が来てくれたからとても安心した。夕方になるとお父さんが帰っていった。僕は、お父さんに、

「バイバイ。」

と言った。お父さんも、

「バイバイ。」

と返してくれた。はなれてしまってさみしいけれど、明日もがんばろうと思った。朝になったら、お父さんがまた来てくれた。おみやげも買ってきてくれた。僕はそのおみやげをお母さんと一緒に食べた。また、少し元気が出た。

幼稚園のみんなに手紙をもらった。本当にうれしかった。僕はその手紙をいっぱい、何回も読んだ。また、夜になった。お母さんは僕に、

「大丈夫。すぐ治るから安心して。」

と言ってくれた。僕は、不安な気持ちが安心の気持ちに変わっていくのが分かった。

次の日の昼になると、ぼくのベットの隣に新しくだれかが引っこしてきた。僕は、

「よろしくね。」

と言った。そうしたら、隣の人も

「よろしくね。」

と言ってくれてうれしかった。もっと仲良くなりたいなと思った。僕たちは、とても仲良くなった。でも、一ヶ月たったある日のこと、隣の人は退院した。僕は、よかったような悲しいよう

な気持ちになった。

「また、一緒に遊ぼう。」

と言われたので、僕も

「うん。また一緒に遊ぼう。」

と言った。僕も早く退院したいと思った。それから朝になると、病院の先生がやって来て、退院できると教えてくれた。本当によかった。

僕は入院しているとき、不安な気持ちや怖い気持ちがたくさんあった。でも、その中で家族の支えや幼稚園のみんなの手紙や、となりの人と仲良くなれたことで、安心したりうれしかったりする気持ちに変わっていった。だれかいてくれるのは、本当に安心する気持ちになることも分かった。ぼくは、もう入院はしたくない。でも、不安な気持ちや悲しい気持ちをもっている人のとなりにいてあげたいと思う。

最優秀賞

ジェンダーレスについて私が考えたこと

川東小学校　六年
金平琴子（かねひらことこ）

下校で集合している時に先生が言った言葉。

「女の子なんだから股を開いて座らない。」

私は、その会話を何気なく聞いていました。よくある会話。その時私は、先生が言ったことを深く考えませんでした。

最近ジェンダーレスやジェンダーフリーという言葉をたくさん耳にするようになり、ふと、その時の会話が思い浮かびました。ジェンダーレスとは、男女の性差をなくそうという考え方で、さまざまな取り組みが行われていることを知りました。例えば、「制服を、ズボンかスカートのどちらかを自由に選ぶことができる」や「女の子だけじゃなく男の子もさん呼びをする」など。私が一番身近に感じることは、男の子は青、女の子は赤などイメージで決めつけることをなくしていこうという考えです。私は小さい頃から、青や水色が好きで、その頃は服でも全部青や水色のものを選んでいました。でも、「女の子なんだから赤にしたら」と言われたことは、記憶にありません。私は女の子はピンク、男の子は青という考え方で育てられたのではないことに気が付きました。

今みんなの前でも堂々と「青が好き」などと言えるのが、普通と思う人がいると思いますが、言ったら馬鹿にされそうで言えないという人がどこかには、いると思います。私のクラスには、男子がピンクが好きということを言うと笑いながら「男の子なのにピンクが好きなの?。」と、からかいながら聞く女子もいるけど、なんで女の子が青が好きでも何も言われないのに、男の子がピンクが好きだと笑われるのかなと思いました。

先生は、その子に「女の子なんだから股を開いて座らない。」と言ったのは、格好が悪いからなおしてほしくて無意識に

言ったのだと思います。無意識でも私が、そう言われたらとても悲しくなります。「女の子だから」、「男の子だから」、「女のくせに」、「男のくせに」など今までの長い時間で定着した考え方を、変えていくことは簡単なことではないと思います。しかし、性別関係なく一人一人、人間として、おたがいに認め合い尊重し合える社会をつくっていくために、私も、自分の無意識な発言に対して嫌な気持ちになる人がいることをわすれずにこれからも言葉に気をつけて生活しようと思います。身の回りのジェンダーにも目を向け考えることが大切だと思います。女の子だけが股を開いて座ってはいけないことはない、男の子でもピンクが好きでもいいということが当たり前になる社会になってほしいと思います。

優秀賞

小さなことだけど

湯原小学校　六年
小河原（おがわら）　獅（し）文（もん）

社会には、自分の身体をうまく動かせなかったり、自分の気持ちをうまくしゃべれなかったりする人がいます。ぼくは、四年生のときに、学校で車いす体験をしたり、目が見えない人の体験をしたりして、その人たちのことを考えたことがあります。また、六年生になって、旭川荘を見学して、利用者の方が作業をしている様子を見ました。利用者の方が描いた絵や作った作品を見ました。その中には、賞をとっている人もいて、すごいと思いました。

だけど、ぼくはその人たちのことを少し怖いと思ったり、少し避けてしまったりすることがあります。だから、より仲良くなれるよう、自分ができる三つのことを考えました。

一つ目は、困っていたら助けることです。ぼくはそんなにすごいことができないし、障がいについて詳しく知らないので、小さなことかもしれないけど、「見えない、物が取れない」など、困ったことがあったときには、声をかけたり、手伝ったりしようと思います。当たり前のことだけど、少し勇気が必要です。でも、そうすることでより仲良くなれると思うので、困っていたら助けたいです。

二つ目は、その人たちの気持ちを考えることです。ぼくにとっては、少しうるさいなと思う音も、障がいの内容によっては、ぼくよりも二倍の大きさで聞こえることがあるそうです。反対に、音が聞こえにくい人もいます。だから、その人自身のことをしっかり分かって、その人の気持ちを考えて関わることが、仲良くなるために大切だと思いました。

三つ目は、障がいがあるからと言って、からかうことはしないことです。悪口を言ったり、避けたりと、その人を傷つけたりすることは絶対にだめなことです。相手だけでなく、周りの人もいやな気持ちになります。また、自分も後で後悔して傷つ

くと思います。障がいがあるからといって悪いことはないし、みんな平等で、一緒に遊べたり、話したりできるようにしたいです。

旭川荘を見学した時、施設の方が利用者の方の足や手をマッサージしたり、歩くときに支えたりしていました。大変そうだったけど、利用者の方も施設の方もニコニコと笑っていて、あたたかい空気でいいなと思いました。ぼくにできることは小さなことかもしれないけど、みんなが仲良く過ごせるように行動していきたいです。

優秀賞

自分の言葉と行動を大切に

落合小学校　六年
藤平（ふじひら）　愛咲（ちさき）

私が座右の銘にしたい言葉は、「自分の言葉と行動に責任をもて」です。これは、私の友達Aが言っていた言葉です。私が、この言葉を選んだ理由は、自分の言葉と行動に責任をもち、嫌な思いをする人を減らしたいからです。

五年生のとき、私と友達とで公園で遊んでいたときに、学校の話になりました。私は、

「二人の学校では、イジメはないの。」

と聞いてみました。聞いた理由は、私の学校では嫌な思いをする人が多いからです。友達Bは、

「前のことだけどあったよ。」

と言い、私は二人の学校でもイジメがあるということを初めて知りました。私は、そこでどういうことがあったのかを聞いてみました。すると、友達Aはちょっと言葉をつまらせながらも、

「五年生の一学期のとき、あるきっかけでいじめが始まり、毎日学校に行くたびに、いじめられていたんだ。」

と話してくれました。私は、まさか友達Bがいじめられているとは思わなかったです。友達Bは、

「私がいじめられていたとき、友達Aが何度も注意をして止めてくれて、うれしかったんだ。それでもいじめが止まらなくって、怒った友達Aが、いじめていた人達に向かって、『自分の言葉と行動に責任を持って、相手の気持ちになって考えてよ。』って言ったんだ。」

と言ったのです。私は、友達Aが言った「自分の言葉と行動に責任をもて」という言葉が心に響き、心がグッとしました。それと同時に私は友達Bに対して、

「よくいじめにたえたね。大丈夫だった。」

と聞きました。友達Bは、

「大丈夫だよ。友達Aが、何度も助けてくれたし、私も、友達Aの『自分の言葉と行動に責任を持て』っていう言葉に心が響いて泣きそうになったほどだよ。」

と言ったのです。友達Aはいじめを止める勇気があるけど、私

はあまりいじめを止めたり何かを止めたりということができません。友達Aは止められて、私も何かを止めるということができるようになりたいなと思いました。

私は、友達A、Bからこの話を聞き、「自分の言葉と行動に責任をもて」という言葉を中学生になっても高校生になっても忘れないようにしたいと思いました。もし、誰か相手を傷つけてしまったら自分の心の中で「自分の言葉と行動に責任をもて」という言葉を思い出し、これからも自分の発言と行動に気をつけて生活に生かしていきたいです。

最優秀賞

高齢化による問題と対策

蒜山中学校　三年
山岡（やまおか）千夏（ちなつ）

私が今回書くテーマとして、近頃、問題とされる『高齢化』にしようと思ったきっかけは、地域の交流会に来る人のほとんどが65歳以上の高齢者で、

（耳遠い人増えたなぁ。そういえばこんなに高齢者、多かったっけ？）

と思ったからです。

私は三年の公民の授業、第一回目の時に、少子高齢化の問題について学びました。そしてその時に高齢化によって起こる問題とそれを防ぐ方法について考えました。

まず最初に高齢化によって起こる問題とは何か考えてみました。

一つ目は財政が悪化するということです。働く若者が少なくなり、仕事ができず、税金も減るからです。

二つ目は経済成長ができなくなるということです。若者が少なくなり、労働力が低下するからです。

三つ目は社会保障が十分にはできなくなることです。高齢化によって社会保障費が上がり、子孫たちの世代に負担を先送りしなければいけなくなるからです。さらに、介護を受ける人が増え、医療などに必要な費用が増えていくことになるからです。

四つ目は安心・安全な社会ができる場所が一つもなくなるということです。中山間地域から都市に行く人が増加し、日本の貴重な森林や田畑が荒れ、放棄されたり、伝統文化が消滅したりします。そして中山間地域が消滅してなくなってしまえば都市へ売っている食べ物もなくなり都市も生き残ることは難しくなるからです。

このように、高齢化によって起こる問題は沢山あります。

では次に、それらの問題を解決するため根本の高齢化を防ぐ方法を考えてみましょう。

一つ目は年齢に関わらず働ける社会をつくることです。まずは『定年』というものをなくすといいと思います。でも私自身は高齢者となってからも働こうとは思いません。だって、働

くって疲れるじゃないですか。正直、
（高齢者と若者、絶対に話がずれる。衝突して仕事進まないでしょ。今より悪くなる。）
って思ってます。だから次の方法を私はオススメします。
それはロボットを使うということです。ＡＩ機能を取り入れて、少人数で仕事がちゃんと進むようにしたらいいと思います。例えば、人とのコミュニケーションを必要とする保育園では、子どもの世話は人がやり、そうじや片付けなどはロボットがやるというように、それぞれを役割で分けたらいいと思います。
二つ目は小学校などで高齢者との交流の場をつくり、伝統文化などを語ることです。実際、私は小学生の時にこのような会がありました。地元の大宮踊りもこの時はじめて詳しく知りました。そして今では大宮踊りをするためだけに祭りに参加するほど好きになりました。
三つ目は家をバリアフリー化することです。そしたら高齢者に限らず障がい者にもよく、私たちにとってもいい、一石三鳥です。これは、やってる所もありますがまだ少ないのでこれから増えていったらいいと思います。
これらの方法は高齢者だけでなく、全ての世代の人々にメリットがあります。例え、メリットがなくても、高齢化が防げるということ自体にメリットがあります。なので私たちはこの取り組みに参加するべきです。でもまだ、
（高齢化が進んでも大丈夫でしょ。）
（私には関係ない。）
と思っている人がいると思います。まだ若くても私たちはいずれ年をとり、高齢者になります。そしてそれは長いと思っていても、案外短く早いです。なので決して他人事だと思わず過ごしていくことが今の私たちにできる大切なことだと思います。

優秀賞

周りに目を向けて

蒜山中学校　一年
池田（いけだ）　佳奈美（かなみ）

私は「外国人の方に対する人権問題」について考えました。私が「外国人」に対する人権について考えた理由は、ニュース番組などで、「外国人の方に暴力をふるった」などのニュースを見ました。その時に、「どうして出身国が違うだけで、そんなことをするのだろう。」と思ったからです。
まず、「人権」という言葉について、正しい意味を知るために調べてみました。人権とは、「人が生まれたときからもっている、自由と平等、生存などの権利のこと」だと分かりました。私は、「相手のことを思いやり、傷つけないようにすること」だと思っていました。でも「自由」「平等」「生存の権利」という意味があったので、その意味を頭に入れて、行動しようと思いました。

次に、外国人に対する人権問題は、どのようなことが起きているか調べてみました。例えば、「アパートの入居を拒否される」「理容店で、外国人であることを理由に、理容サービスの提供を拒否される」という問題が起きていると分かりました。私は、「外国人だから」という理由で差別するのは、やってはいけないことだと思います。文化や肌の色が違っても、同じ人間なので、みんな平等に接することが大切だと思いました。人それぞれ考え方はあるかもしれないけど、「差別」ということは、してはいけないし、されてもいやなことだと思います。なので、互いに思いやりの心をもって、行動することが必要だと思いました。

外国人の人を差別しないようにするために、私たちができることを考えました。一つ目は「コミュニケーションをとる」ことです。町などで会ったときに、声をかけられて返事をしなかったら、相手は

「差別されてる」「無視されている」「怖い」

と感じてしまうと思います。なので、まず声をかけられたら、目をそらさないで少しずつ話すと、互いにいやな気持ちをしないですむと思います。でも、英語などだと話せないという人も、たくさんいると思います。私も会話するほど英語を話せません。自分も困ったら、近くにいる人やガイドの方などに相談すると良いと思います。また、英語を勉強しておくと役立つし、ジェスチャーや絵で会話するなどできると思います。二つ目は、外国人の方が困らないように、「英語でポスター」を書いたりすることです。お店のトイレなどに、「禁煙」という文字の下に、「英語」「中国語」「韓国語」などで言葉が書いてあったりします。私は、日本語が読めない外国人の方にとっては、とても便利なものだと思います。なので、公共施設や、飲食店などの、外国人の方々も行くところに、日本語以外の言葉の表記を増やすと、いろんな人が暮らしやすくなると思います。「表記があると迷惑」と思う人も出てくると思います。でも、逆の立場になったとき、自分が困らないかどうかを考えてみると「困る」と思います。相手の立場になって考えてみると、外国人の方の気持ちも分かると思います。なので、互いの気持ちを尊重し合って、たくさんの人が暮らしていけるように、工夫すると良いと思いました。

私がこの作文を書いて、これから大切にしていきたいことは、「相手の気持ちを考えて行動すること」です。これを大切にしていきたいと思ったわけは、「自分達が暮らしやすかったら良い」「自分達さえよければ良い」と相手のことを考えていなかったら、周りに困っている人がいても、気づけません。なので、「自分達は暮らしやすいけど、周りの人はどうだろう」「逆の立場にいたらどう思うだろう」と周りに目を向けて、「困っていたんだ」「助けてあげよう」と思えるようにしていきたいと思ったからです。

今までは、「人権」と聞くと、「いじめ」「差別」と考えていま

した。でも、私が考えていたいじめや差別は「学校内」「日本内」のことを、多く考えていました。でも視野を広げると、「外国人」という人にも、いじめや差別が起きていると分かりました。国が違うと言葉も違って分からない、ということがあります。私も実際、公園の遊具の中で、外国人の女の子に会って、体をゆすられたり何か言われて、「怖い」と思いました。その時は小学校中学年くらいで、英語を話すことができませんでした。でも、今は中学生になったので、英語を少しは話せます。なので、少しずつコミュニケーションをとっていきたいと思います。一人一人に「差別をしない」ということを呼びかけて、お互いに思いやってほしいと思いました。

優秀賞

「少数派の方が不利？」

湯原中学校　二年
杉村嘉穂（すぎむらかほ）

私は今まで、なんでも少数派の方が不利だと思っていた。なにかを決めるときも多数決で決めるし、選挙でも必ず票の多い方が決まる。それに、障害のある方の方が少ないから少なからず差別もあるだろうし、完全に住みやすいということもないと思う。「みんなと違う」それだけで人間は人を差別するからだ。

また、最近はＬＧＢＴＱなどの言葉を耳にすることがよくある。当人の方々はどう思っているのかわからないが、そういう言葉も差別につながるような気がします。その言葉があるせいで「カミングアウト」するか悩む方もいるし「自分は普通の人と違うかもしれない」と悩む方もいると思うからだ。しかし、「ＬＧＢＴＱ」という言葉が浸透してきたことにはメリットもあると思う。きっと昔は、男性同士、女性同士の結婚などもってのほかだっただろうから「カミングアウト」しても病気か何かかと思われていたかもしれなかっただろう。そのことも人が少ないからであると思う。

結果から言うと、少数派の方が不利だ。しかし「なんでも」ではない。パラリンピックで選手として活躍されている方もいるし、世界では同性婚が認められている国もある。

そのように変化しつつある世界の中で、私は疑問に思うことがある。「「ふつう」ってなんだろう」と。私の「ふつう」と友達の「ふつう」は同じだろうか？もっとわかりやすくすると、私の「ふつう」とあの芸能人の「ふつう」は同じだろうか？違う。日本中、世界中を探しても「ふつう」が同じ人は誰一人としていないのだ。しかし、差別は「みんなと違う」ということで起こる。これはおかしいと思う。なぜなら、みんな「ふつう」ではないからだ。

そう思うと「ふつう」という概念は何なのだろうか。「ふつう」をインターネットで調べると、意味は「いつ、どこにでもあるような、ありふれたものであること。他と特に異なる性質

を持っていないさま。」とあった。ということは「普通じゃないから」と思って人をいじめたり差別したりするには、世界中の人々がその人に対して「普通」じゃないからといわないと成立しないことになる。果たしてそんなことが可能だろうか。私は到底無理だと思う。いじめをする人にはこんな覚悟はあるのだろうか。

インターネットで調べたもの以外に、私がこの前読んだ「赤毛証明」という本には「ふつう」について「自分らしいありのままの状態のこと」と書かれている。私もこの考えに賛成だ。しかし、父は「協調性も大事だ」という。私は、協調性は大切だと思うが、協調性を大切にしすぎていると息が詰まるし生きにくい。自分らしく、自分を活かして生きることができれば、心に余裕が生まれてくると思う。そうすると、協調性も自然と出てきて、今よりもっと良い社会になるのではないかと思っている。

私は今まで、いじめられていた人の観点から見ていた。では、いじめる人はどうなのだろうか。いけないことだと分かっているのに、なぜいじめは減らないのだろうか。あくまで私の考えだが、いじめている主犯格の人も何か悩んでいることなどがあったのではないかと思う。いけないと分かっていることをするには、たくさんの勇気が必要だと思う。いじめをする前に何回もＳＯＳを出して、いじめは最終手段ではないのだろうか。いじめの内容が入っている物語では、大抵いじめられている主人公がいじめている人をなんらかの方法で成敗するという内容だ。「めでたしめでたし」のようになっているが、全く「めでたし」ではないのだ。いじめていた方の悩みも何も解決していない。一つだけ思うのは、「いじめ」があった後のことの方が大切だと思う。いじめていた人が次はいじめられていたり、一人でいたりしないかを確認する必要があると思う。したがって、いじめを減らすには、人のＳＯＳにはやめに気付いて対処することが大切だ。

「普通じゃないかもしれない」と思った人がいたら、そんな人こそ「自分らしく」生きて欲しいと思う。そしていじめの主犯にならないようにするには一人でためこまないようにすることが大切だと思う。私は自分らしく生きたいし、それによって壁ができても私は自分らしく乗り越えたいと思う。

優秀賞

いつまでも無くならないもの

湯原中学校　三年
馬場（ばば）　萌乃香（ほのか）

皆さんは「社会人」と「学生」の違いがあると思いますか？それは「年」や「いろんな事に対する考え方」などがあると思います。でも、同じところもあると私は思います。それは、「いじめ」や「差別」「誹謗中傷」などは大人になっても消えないと

思います。

そう思ったのは、テレビニュースで以前いっていたことなんですが、会社の人からの「圧力」などがあって亡くなってしまう人もいるということです。私はそのようなニュースを見て思います。「圧力をあたえている人は何が良くてしているのかな?私達学生が全ての人がするわけでないけれど、「いじめ」のようなものなのかな?」と思いました。そう不思議に思った私はネットで調べてみることにしました。そこには、「原因は、子どもと同じです。」とありました。それを見て「大人になっても「いじめ」というのは無くならないんだな」と思いました。

そんな時、私が尊敬する人が言ったある言葉に私は、「だから無くならないのかな。」と思いました。その言葉は、「大人になるための勉強を学生のように授業をうけている訳はない。身の周りにいる人を見たりして自然と学ぶのだ。だから、学生の時に「いじめ」をしていた人は大人になっても同じことをしてしまう」と言っていました。たしかにそうなのです。私達の親もそうです。実際、子供に虐待などをしている人もいるし、優しい人もいます。

ではなぜ、こんなにも違うのか。私は今回一番気になっていた「なぜ、人は人をいじめるのか」ということを調べました。そこには、「いじめる人は一人になりたくなくて、他人をいじめることにより、仲間を作っている。」とのことでした。確かに一人は嫌ではあります。でも、そのような方法で仲間を作っても、いづれかは呆れて仲間も離れていってしまうと思います。私はそんな方法ではなく、自然に振る舞って気が合う人と仲良くなれば、仲間はできると思います。でも、できない人もいるでしょう。そんな時、周りにいる人が少しでも話しかけることで少しでも変わるのではないかと思います。

しかし、最近増えているのはネットで一人を多くの人が皆でカキコミをして、人の心を傷つける、ということが増えています。こういうことを「誹謗中傷」といいます。それに合っている人は心を傷つけてしまい、自分が自分でなくなってしまう人もいます。そして、それをしている人は悪気はなくただ思ったことをしたまで、と思ってしている人がほとんどだと思います。

人は、「一人にはなりたくないから」という理由で人を傷つけ、自分も傷つけている人がいます。でもそんなことをしてもただ自分が苦しくなるだけだと私は思います。これは「大人」も「子供」も同じなので一度きりの人生の道を間違えぬように、辛い時は自分が信頼できる人に助け船を出してみればいいと思います。きっと助けてくれると思います。それまでは、自分の中にいる自分を殺してまで間違った道を進まないようにしましょう。

標語の部　最優秀賞

小学校低学年の部

うれしいな　やさしいことば　がんばれる

美甘小学校二年　廣岡（ひろおか）　純佳（すみか）

小学校中学年の部

みとめよう　ひとりひとりの　考えを

余野小学校三年　入江（いりえ）　祥太（しょうた）

小学校高学年の部

違っていい　みんなの心と　自分の心

草加部小学校五年　森上（もりうえ）　颯真（そうま）

中学校の部

人権は　明るく楽しく　生きること

落合中学校一年　清水弥古都（しみずみこと）

高校・一般の部

お互いに　認め育む　人権意識

永田（ながた）　寿道（ひさみち）

標語の部　優秀賞

小学校低学年の部

「ありがとう」がひろがれば いいことといっぱい
川上小学校二年　樋口（ひぐち）　大騎（だいき）

わるぐちは みんないやだよ やめようね
八束小学校二年　池田（いけだ）稀々加（ののか）

わるロや いじめをしない つよい自分
天津小学校二年　森谷（もりや）　陽向（ひなた）

小学校中学年の部

ありがとう 心がきれいに なる言葉
川上小学校三年　植木（うえき）　誠吾（せいご）

大じょうぶ こまっていたら たすけるよ
八束小学校三年　川合（かわい）　そら

たすけよう 見てみぬふりは いじめだよ
美甘小学校三年　中山（なかやま）　瑠夏（るか）

小学校高学年の部

消しゴムで 消えない重さ そのことば
遷喬小学校六年　岡田（おかだ）　小春（こはる）

やさしさで きみのみらいを かえていく
八束小学校五年　池田（いけだ）　湊翔（みなと）

一人ずつ 宝の原石 持っている
八束小学校五年　入澤（いりざわ）　聖（せい）

中学校の部

言葉はね 人を幸せに できるもの
勝山中学校一年　山田（やまだ）　煌仁（きらと）

チョイ待ち 傷つけてねーか その言葉
落合中学校三年　金利（かねとし）　幸穏（しおん）

行動と 言葉で伝える 思いやり
落合中学校三年　室川（むろかわ）　幸穂（ゆきほ）

高校・一般の部

助け合い みんな幸せ 地域の誇り
片山（かたやま）　信子（のぶこ）

気づいてよ わかってよ 僕のこと 私のこと
藤木賀巳子（ふじきかしこ）

あいさつは 人をつないで 明るい地域
藤木（ふじき）　信宏（のぶひろ）

令和４年度 真庭市人権作品コンテスト入賞者一覧表

◇ポスターの部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校低学年	最優秀賞	米来小	2	光岡 葵
	優秀賞	月田小	2	堀 聡大郎
		湯原小	2	三船 和心奈
		川東小	2	小林 美知子
	奨励賞	湯原小	2	福島 梨香子
		川上小	2	樋口 あか里
		河内小	2	瀬島 陽奈
		勝山小	1	古南 咲奈
		富原小	2	沖田 優妃
		天津小	2	伊藤 丈士郎
		月田小	1	頭應 壽樹
		米来小	1	森田 琴心
小学校中学年	最優秀賞	米来小	4	三村 崇太
	優秀賞	河内小	3	田中 悠翔
		勝山小	3	芦田 愛莉
		天津小	3	神戸 健之介
	奨励賞	北房小	4	小林 愛羽
		川東小	4	遠藤 壮太
		米来小	4	柗尾 奏衣
		勝山小	3	松葉 江那
		勝山小	4	井髙 愛乃恵
		川上小	4	荒田 遥佳
		落合小	3	二宗 瑠莉
		河内小	3	山 悠臣
		湯原小	3	手島 古都
小学校高学年	最優秀賞	勝山小	6	上田 満ちる
	優秀賞	米来小	6	松原 愛美
		川上小	6	三原 遙真
		木山小	5	宮本 百賀
	奨励賞	木山小	5	奥山 茉衣
		落合小	5	黒田 莉来
		天津小	6	穐山 唯愛
		勝山小	5	寺越 千華
		北房小	6	清水 菜央
		落合小	5	西谷 さゆみ
		勝山小	6	若佐 志麻
		米来小	6	二宗 蓮王
		遷喬小	5	中島 綾音

中学校	最優秀賞	落合中	1	道下結月
	優秀賞	落合中	3	押柄來玲杏
		勝山中	3	小田彩瑛
		久世中	1	定方梓
	奨励賞	北房中	1	久保澄々加
		北房中	3	佐久知舞
		蒜山中	1	二若美琴
		落合中	2	小林夕姫
		湯原中	1	藤原一起
		湯原中	1	武久志麻
		久世中	1	西琉斗
		久世中	3	小柳真央
		勝山中	3	植田美羽

◇作文の部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校低学年	最優秀賞	天津小	2	室川陽菜子
	優秀賞	天津小	2	林奏希
		富原小	2	稲岡幸瞳
	奨励賞	天津小	2	長家樹聖
		富原小	2	沖田優妃
小学校中学年	最優秀賞	遷喬小	4	松田旺征
	優秀賞	富原小	4	綱島新
		富原小	4	宮田成実
		草加部小	3	池田光ノ丞
	奨励賞	天津小	3	松田紗季
		落合小	4	難波侑愛
		落合小	4	山本一樹
		遷喬小	4	福富蓮珠
		月田小	3	影山瑠星
		湯原小	4	近藤果穂
小学校高学年	最優秀賞	川東小	6	金平琴子
	優秀賞	湯原小	6	小河原獅文
		天津小	5	森脇美羽
		落合小	6	藤平愛咲
	奨励賞	川東小	5	牧哲平
		川東小	6	中尾綾花
		川東小	6	坂本愛梨
		富原小	6	上田駿介

小学校高学年	奨励賞	落合小	6	藤田詩
		草加部小	5	田村康太
中学校	最優秀賞	蒜山中	3	山岡千夏
	優秀賞	蒜山中	1	池田佳奈美
		湯原中	2	杉村嘉穂
		湯原中	3	馬場萌乃香
	奨励賞	蒜山中	1	植木磨奈
		蒜山中	3	万庭言葉
		北房中	2	梶田知里
		北房中	1	岩井千紘

◇標語の部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校・低学年の部	最優秀賞	美甘小	2	廣岡純佳
	優秀賞	川上小	2	樋口大騎
		八束小	2	池田稀々加
		天津小	2	森谷陽向
	奨励賞	余野小	1	水澤茉柚
		樫邑小	2	丸尾こころ
		中和小	1	小椋林檎
		川上小	1	長尾百桜
		川上小	2	石賀真衣
		八束小	1	池田慈音
		八束小	2	柴田采朋
		天津小	1	家元遥
		美川小	1	岡本実由幸
		富原小	2	沖田優妃
		草加部小	1	大前凛紗
小学校・中学年の部	最優秀賞	余野小	3	入江祥太
	優秀賞	川上小	3	植木誠吾
		八束小	3	川合そら
		美甘小	3	中山瑠夏
	奨励賞	河内小	4	青木暖斗
		中和小	4	中澤樹
		川上小	3	池田大実
		川上小	3	眞田莉未
		川上小	4	山乗詠人
		八束小	4	神田隼輔
		八束小	4	小谷悠介

小学校・中学年の部	奨励賞	八束小	4	桐原愛結
		八束小	4	坂江双葉
		八束小	4	中西夢花
		天津小	4	佐野ひなの
		富原小	4	﨑花昭斗
小学校・高学年の部	最優秀賞	草加部小	5	森上颯真
	優秀賞	遷喬小	6	岡田小春
		八束小	5	池田湊翔
		八束小	5	入澤聖
	奨励賞	木山小	6	岸航大
		河内小	5	金田惇之介
		中和小	6	田中菜々
		川東小	6	青山一花
		川上小	6	法華晴
		天津小	6	穐山唯愛
		美甘小	6	松尾凛
		富原小	5	稲岡征瞳
中学校の部	最優秀賞	落合中	1	清水弥古都
	優秀賞	勝山中	1	山田煌仁
		落合中	3	金利幸穏
		落合中	3	室川幸穂
	奨励賞	勝山中	3	伊達真歩
		落合中	1	難波乃愛
		落合中	1	太安芭奈
		落合中	2	豊福颯
		落合中	2	西本明音
		落合中	3	若田奏來
		落合中	3	牧斗嗣
		落合中	1	福島羽音
		落合中	1	森田可英
高校・一般の部	最優秀賞			永田寿道
	優秀賞			片山信子
				藤木賀巳子
				藤木信宏
	奨励賞			亀井真吾
				片山喜美子
				兼田和正
				兼田明三

真庭市教育委員会　生涯学習課

発行日　令和5年3月

〒719－3292　岡山県真庭市久世2927－2
TEL 0867-42-1094　　FAX 0867-42-1416